

平成 28 年度 全国学力・学習状況調査

白根小学校

4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取り組みについてご説明します。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面にすぎません。この調査結果に一喜一憂することなく、児童一人ひとりの力をつけることに、引き続き取り組んでまいります。

地域・保護者のみなさまには、本調査の趣旨を十分に理解した受け止めをしていただけるようお願いいたします。

1 小学校 教科別 学習状況調査結果（平均正答率(%)）

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
本校	68.8	57.9	76.0	45.6
神奈川県	70.3	58.2	76.6	47.3
全国	72.9	57.8	77.6	47.2

2 教科学習状況調査結果より

○力がついてきていると考えられる内容 ▲力をつけていくべき内容

<国語 A：主として知識>

○目的や意図に応じて、収集した情報を関係付けながら話し合うこと

▲目的に応じて、図と表とを関連付けて読むこと

▲漢字やローマ字の無回答率が多いこと

▲用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列などを決めること（書写）

▲ローマ字の読み書き

<国語 B：主として活用>

○目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書くこと

○目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること

▲インタビュー内の質問の意図を捉えること

▲記述式の問題の無回答率がやや多いこと

<算数 A：主として知識>

○除法における計算の方法を理解していること

○数の大小関係を理解していること

○三角形の底辺と高さの関係について理解していること

▲末尾の位のそろっていない小数の加法の計算

▲乗数が整数である場合の分数の情報の計算をし、約分すること

<算数B：主として活用>

○問題解決のために、必要な情報を判断すること

○辺の長さや角の大きさなどに着目して見通しをもって図形を構成したり、構成できた根拠を説明したりすること

▲問題解決のために、問題場面と式を関連付けた上で、計算の順序に基づいて正しく計算すること

▲目的に応じて図形の性質を活用すること

▲図形と式を関連付けて、式の意味を説明すること

3 調査結果を受けて

国語

昨年の方策から

・学習する単元のゴールや身に付けさせたい力を明確にすることで、児童たちが見通しをもった学習を進められるようにする。

→見通しをもち、何ができればよいのか、めあてを理解して学習に取り組む児童が増えてきている。

・言語活動例を具体化し、「図鑑をつくる」「解説リーフレットにまとめる」「新聞にまとめる」などの言語活動を単元を貫いて位置づけることにより、児童自身の「目的や必要」を明確にし、それに応じて要約できるように指導する。また、上記の学習を他教科の学習と関連づけて、まとめたり書いたりする力に繋げる。

→短い言葉で見出しにまとめる力、記述式の問題に取り組もうとする力がついてきている。

今後の方策

・図や表がどのような意図で用いられているのかを理解する力をつけること（説明文の読み取り）

算数

昨年の方策から

・本時のめあてが明確になるような導入のあり方を工夫する。

→1時間の授業の中で考えることが何なのかを理解し、学習に取り組む児童が増えている。

・低学年は具体物を操作したり、高学年は図や数直線を使って考えたりすることで、視覚的に捉えて問題解決できるようにする。またホワイトボードを活用して学習を行うことで、自分とは違う考え方を知り、説明を聞いて理解をすることができるようにする。

→具体物や数直線を活用し、問題を解決しようとする児童が増えてきている。

・学習中に思考する時間を設け、個人の問題解決力を高める。

→自力解決の時間を確保することで、自分の考えを整理し、他の児童の考え方と比べることができるようになってきている。

・課題を解決した児童が他の児童のサポートをし、自分の言葉で説明することによって、さらに理解が確実になるようにする。課題解決がやや難しい児童にとっては、友達からヒントをもらい、課題解決の糸口が見つけられるようにする。

→課題を自力で解決できる児童にとっては説明する力がついてきている。また、課題解決が難しい児童にとっては、教師や友達のサポートで、課題を理解し、途中まででも自分で問題に取り組むことが

できたという思いをもつ場面が増えてきている。

- ・発表している児童の考えのポイントを教師が整理することで、児童の考えの幅を広がるようにする。
また、似た問題を繰り返し出して定着できるようにする。
→思考の整理の視点について確認し、それぞれの考え方の特長を見つけていくことで、よりよい考え方を発見していこうとすることができるようになってきている。

今後の方策

- ・計算・図形についての基本的な練習の充実（スキルタイム、宿題）
- ・既習事項を復習する機会の充実（定期的な復習プリントの活用）
- ・出てきた考え方について考え、説明する場面の充実（授業の中で友達の考えを説明するなど）

生活

「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」が多い回答

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦する
- ・自分にはよいところがある

→学習や学校生活の中で、自分で目標を立ててものごとに取り組んだり、友達から認められたりする機会を設定することにより、自尊感情の高まりを感じることができている。学校でも、家庭でもよいところを認め、さらに自尊感情を高める支援をしていく。

「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」が多い回答

- ・家で学校の授業の予習や復習をしている
- ・新聞を読んでいますか

→学習の中で、興味や関心をもって調べ学習に取り組んだり、知識を得ることが楽しいと感じたりできるような導入や学習の展開をさらに工夫して、子どもたちの学習に対する意欲を高めていく。家庭では、宿題に目を通し、子どもの学習の頑張りや困り感を把握してほしい。

- ・普段、1日当たりどのくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを見たり、聞いたりしますか。（勉強をするためのテレビやビデオ・DVDを見る時間、テレビゲームをする時間は除きます）

→2時間以上（57.1%）

- ・普段（月～金曜日）、何時ごろに寝ますか。

→10時以降（82.9%） 11時以降（41.9%）

→道徳や日々の生活の中で、基本的な生活習慣を身に付けることができるような支援をしていく。テレビやDVDの視聴、就寝時刻については改善が必要である。